特集　伝統農産物・特産農産物の紹介　Part 11

昔から農家や地域で大切に守られてきた多くの特産農産物を皆さんに知ってもらい、地域農業の振興に役立ててもらうため、この特集を行っています。今回は**“神鍋ネギ”**と**“たじまピーマン”**です。

「神鍋ネギ」を地域の特産物に

数年前より、道の駅「神鍋高原」の直売所にネギの出荷が見られるようになった。

神鍋にはキャベツ、スイカ、イチゴなどの特産品もあるが年々その作付けは減少している。そこで次なる特産物を目指して「神鍋ネギ」と命名し関係者は力を注いでいる。

「神鍋ネギ」は雪深い地の利により「ヌル」と言われる水溶性ペクチンが多くなり、同時に甘味、柔らかさを増し、茎の白い部分が長く太いのが特徴である。この時期、鍋物になくてはならないものでもある。

現在、十人程度の生産者が意欲的に取り組んでいる。

道の駅「神鍋高原」では六月にはキャベツまつり、八月スイカまつり、そして、十一月ネギまつりを開催し、PRに余念がない。また、その際、地域連携の一環として西気コミュニティの大根も販売している。今では、どのイベントも地域に定着したものとなっている。

店長であり広報担当を兼務されている川辺麻紀さんは、神鍋野菜の美味しさをもっと広く多くの方に知って頂きたい。さらに、加工品としてもその魅力を余すところなく発信していきたいと意気込む。

好きな言葉は「輪」まさに彼女の思いそのもの。これからも、どんな展開が繰り広げられるのか、目が離せない。

（農業委員　原　清美）

たじまピーマン

「JAたじまピーマン協議会」の会長である（有）あした社長の霜倉和典さんを訪ねました。

（有）あしたでは約3千本ものピーマンを栽培されています。女性の方も収穫作業ができることから、地域の雇用創生にも役立つとのこと。また、農業スクール生の受け入れをすることで、次世代の新規就農者育成にも貢献されています。

「たじまピーマン」は肉厚で歯ごたえが良く苦みが少ないのが特徴で、関西の市場から特に高い評価を受けています。

２０２１年度は、但馬地域で１７３名の生産者が約10万7千本の栽培に取り組みました。しかしながら生産者の高齢化が進んでおり、ここ近年伸び悩んでいるのが現状です。

その中でも但東町野菜生産組合は１９７０年に発足し、50年もの歴史があります。

拍動潅水装置の導入を進めることで潅水と追肥の省力化に取り組み、安定的に高品質なピーマンを出荷できるようになりました。

２０２０年度には初めてピーマンの販売高が一億円を突破するなど、但東町は但馬をリードする産地です。他地域への栽培技術共有も惜しげもなくされており、「但東町だけでなく、但馬全体で産地として盛り上げたい」と熱意を持って取り組まれています。

霜倉さんは、「稲作のついでではなく、ピーマンを農業経営の柱と考えてほしい。他の地域でもこの考えを共有したい」と強く話されていました。

但馬伝統の特産品であるピーマンを今後も発展させていくため、栽培技術の共有と後継者の育成に今後も尽力されます。

（農業委員　森田　強）

農地の賃借料情報

2021年１月から12月までに利用権が設定（公告）された賃貸借（借賃が有料）における賃借料水準（10ａ当たり）は、以下のとおりです。この金額はあくまで参考です。これを目安に土地の広さ、形状、水利等各種条件を考慮し、賃貸借当事者間で賃借料を決めてください。

■田（水稲）

地域名	平均額（円/年）	最高額（円/年）	最低額（円/年）	抽出筆数（借賃が有料）	使用貸借筆数（借賃が無料）
豊岡地域	9,400	12,000	4,000	97	234
城崎地域	–	–	–	–	–
竹野地域	11,600	15,000	5,000	14	16
日高地域	7,500	12,000	3,000	65	274
出石地域	5,600	8,000	2,000	230	455
但東地域	3,000	5,000	1,500	5	162
全地域	7,000			411	1,141

【この表の見方】
1　抽出筆数は、標準的な賃借料を算出するため、全賃借料の平均値±70％を超えるものを除いています。
2　借賃を現物で定めている場合は、60kg当たり12,000円で換算しています。
3　金額は、100円単位に四捨五入しています。
4　参考のために使用貸借（借賃が無料）の筆数もお知らせします。
5　畑については事例が少ないため算出していません。

かるたで農業に親しみを「豊岡うまいもんかるた」作成　［2022年1月14日付 全国農業新聞で記事掲載］

左から平峰委員、原委員、高尾委員。

豊岡市農業委員会カルタ活動部会の高尾利美委員、原清美委員、平峰英子委員と前農業委員の加悦富美恵さんは、このほど、地元の伝統食や伝統野菜をテーマに「豊岡うまいもんかるた」を作成した。

きっかけは、3年前に市内の認定こども園で食育活動を実施し、子どもたちの喜ぶ姿をみて、もっと農業に親しみをもってもらいたいと考えたことからだという。

「2016年の法改正で、農業委員会の役割に農地利用最適化も追加されましたが、農業の大切さ、伝統文化を伝えるのも農業委員会の大きな仕事」と高尾委員は話す。

イラストは4人が自ら描いたもので、地域の伝統食や伝統野菜などについて、もっと知ってもらおうと市の古い文献などで調べて作成したしおりも添付した。

原委員は、「子どもの頃に聞いたり、遊んだりしたことは記憶に残る。大人になっても豊岡の農業を思い出してほしい」と話す。

平峰委員は、「食をおろそかにしないようにと思うきっかけになれば」と話す。

かるたは70セット作成し、市内の保育園や幼稚園、子ども園などに配布することとしている。

ずっと愛される製品とサービスで
"食"を支える農業の発展に尽くします。

三菱農機販売株式会社

但馬営業所　出石町町分375－1
TEL 0796－52－3551
日高営業所　日高町土居264－1
TEL 0796－42－1832